

科目名 (Subject)	多国籍企業特論 (英字表記) Multinational Corporations	
単位数 (Credits)	単位	(開講時期) 後期
担当教員名 (Name)	穴沢 眞	(英字表記) ANAZAWA Makoto
研究室番号 (Office)	309	
<p>1. 授業目的・方法 (Course objective and method)</p> <p>グローバル化する経済の中で重要な役割を演じる多国籍企業を取り上げ、企業の多国籍化の要因、そのプロセス及び各国間での機能配置について理論的、さらには実証的な考察を行う。</p> <p>海外進出のために企業は競争優位を持たねばならない。一方で進出先国の各種資源を活用し、世界規模での経営を考える。そこには各国でどのような活動を行い、そのためにどのような機能を配置するかを決定しなければならない。また、それらは継続的な見直しを伴うものである。この授業では主に製造業に焦点を当て、企業の多国籍化に伴う機能の最適配置について検討する。</p> <p>ゼミ形式で報告と討論を中心に進める。また、必要に応じて解説を加える。</p>		
<p>2. 授業内容 (Course contents)</p> <p>1 多国籍企業理論 <u>予習課題</u> 多国籍企業に関する理論の概観を把握する。 <u>復習課題</u> 理論に関する理解を深める。</p> <p>2 多国籍企業理論 <u>予習課題</u> 多国籍企業に関する理論の概観を把握する。 <u>復習課題</u> 理論に関する理解を深める。</p> <p>3 多国籍企業の活動 <u>予習課題</u> 多国籍企業活動の全体像の把握 <u>復習課題</u> 多国籍企業活動の理解を深める</p> <p>4 海外生産の決定要因 <u>予習課題</u> 決定要因の抽出 <u>復習課題</u> 決定要因の整理</p> <p>5 海外生産の歴史的展望 <u>予習課題</u> 時代区分と実態の概観把握 <u>復習課題</u> 実態の理解と要因の整理</p> <p>6 参入、拡大戦略 <u>予習課題</u> 多国籍化のプロセスの把握 <u>復習課題</u> 参入、拡大戦略の理解を深める</p> <p>7 企業内関係 <u>予習課題</u> 親会社と子会社の関係を把握する <u>復習課題</u> 親会社、子会社関係の理解を深める</p> <p>8 企業間関係 <u>予習課題</u> 多国籍企業と取引企業との関係を把握する <u>復習課題</u> 両者の関係の理解を深める</p> <p>9 多国籍企業活動の概念的枠組み <u>予習課題</u> 多国籍企業の分析枠組みの把握 <u>復習課題</u> 分析枠組みの理解を深める</p> <p>10 技術革新能力 (ホスト国) <u>予習課題</u> ホスト国での技術革新の把握 <u>復習課題</u> ホスト国での技術革新の理解を深める</p> <p>11 技術革新 (ホーム国) <u>予習課題</u> ホーム国での技術革新の把握 <u>復習課題</u> ホーム国での技術革新の理解を深める。</p> <p>12 雇用と人材 <u>予習課題</u> 多国籍企業の雇用と人材の把握 <u>復習課題</u> 多国籍企業の雇用と人材の理解を深める。</p> <p>13 リンケージと波及効果 <u>予習課題</u> リンケージと波及効果の把握 <u>復習課題</u> リンケージと波及効果の理解を深める。</p> <p>14 国際分業と統合 <u>予習課題</u> 国際分業と統合の把握 <u>復習課題</u> 国際分業と統合の理解を深める。</p> <p>15 多国籍企業と国家 <u>予習課題</u> 多国籍企業と国家の関係の把握 <u>復習課題</u> 両者の関係の理解を深める。</p>		

3. 使用教材 (Teaching materials)

テキスト

穴沢真『発展途上国の工業化と多国籍企業』文真堂。

その他、必要に応じて関連する論文を使用します。

4. 成績評価の方法 (Grading)

以下の評価の要素について、ウェイトをつけて評価します。

評 価 の 要 素	ウェイト
出席率	10 %
授業への参加度 (事例, 討論, 調査)	30 %
ホームワーク (事前課題の提出)	10 %
小テストないしクイズ	0 %
試験ないしプレゼンテーション (最終課題)	50 %

5. 成績評価方法の基準 (Grading Criteria)

成績評価の基準については履修者の専門分野をもとに、授業開始後、早い段階で提示する。

6. 履修上の注意事項 (Remarks)

履修者が少数の場合、履修者の専門分野との関係を考慮し、内容を変更する可能性がある。